

荒田店 営業時間10:00~19:00 (鹿児島市下荒田3-17-1 TEL 099-812-0668)
谷山店 営業時間10:00~19:00 (鹿児島市東谷山5-27-3 TEL 099-822-1055)
ホームページ <http://www.chikyubatake.jp/>

西田店 営業時間10:00~18:30 (鹿児島市西田2-6-19 TEL 099-259-6089)
地球畑カフェ 最新情報! Instagram & フェイスブック! (鹿児島市下荒田3-17-1 TEL 099-201-7000)
→ @chikyubatake_cafe



「ふるさとの島で有機農業を広げる」南種子町 向江 司さん

種子島の南種子町で有機農業を始め、七年目になりました。私が有機農業をしようと思ったのは慣行農業のものより需要があるため販売がしやすいという点や、将来性があること、環境に優しいということがあり、環境に優しいという業にこだわっているというより、自然とそうなっていました。

種子島で有機農業を始める前は、かごしま有機生産組合で七年間、主に直営の農場で有機野菜の栽培をしていました。最初は蒲生農場でトマト、キュウリ、セロリ、玉ねぎ苗、深ねぎ苗を栽培。その後、喜入農場で、深ねぎ、玉ねぎ、オクラ、かぶなどの栽培をさせていただきました。直営農場ではいろいろな野菜を作らせていただき、その経験が今の農業に生きています。

その後島に帰り、農業を始めるのですが、一年目は本土の感覚で栽培したら、土壌の違い、虫の食害、冬の強風などの影響で収量が上がりませんでした。二年目から、失敗を踏まえて、植え付け期間、肥料の量、作付け品目などを改善し、なんとか生活しています。

島でのこれまでの経験を踏まえて、当初考えていた安納芋中心ではなく、冬は安納芋、春はじゃがいもとうろくきょう、夏は落花生などを作付けしています。

南種子町は温暖な気候で、早期栽培ができるという利点があります。霜がめつたに降りないため、冬でも生育が早く、本土ではハウスで栽培する野菜が露地栽培できます。

今南種子では、「有機農業」を軸とした地域活性化ということと、動き出したところです。初めての試みなので、一歩ずつ前に進んでいけたらなと思っています。

まずは「有機農作物生産者として、良い野菜を作り。周りの人に有機農業をやってみたいな」と思ってもらえるところから始めていきたいと思っています。



地球畑西田店店長 渡瀬景子
種子島リポート

向江さんの圃場は案納芋、うろつきょう、じゃがいもなど広大な畑で、手広く栽培されています。向江さんのさつまいもと言ったら、信頼や安心感があるイメージでしたが、実際に畑を見て、さつまいもの扱い方や行き届いた畑の管理、整理整頓された無駄のない作業場など、その品質のよさや信頼はそこから生まれるのだなと思いました。

島からの輸送による品質管理の難しさやコスト等ハンデも多いですが、本土ではあまりお目にかかれないう島ならではの農産物はとても魅力があります。

春になったら収穫をむかえる旬の農産物で、種子島フェアを企画し、種子島の生産者や種子島事業部の農場などを、お客様に知っていただく機会を作りたいと思っただけ種子島訪問でした。

種子島の自然の豊かさを思わせられる向江さんの風貌。実は根っからの老百姓という訳ではなく、若い頃は美容師さんでした。

美容師として多くの消費者に接する中で次に選んだ人生の道が有機農業。細かな作業が苦にならないという手先の器用さから、早くから直営農場を任せられ、ふるさとに帰って農業することになった時、組合代表の亡き夫がとも期待していたのを思い出します。

その彼も、今や有機農業の生産者として地域を引っ張るベテラン農家になりました。ふるさとでの向江さんの仕事ぶりや、有機農業の可能性を伝える力になり、組合が種子島事業に踏み出す原動力になったのです。

有機農業という次世代への希望に満ちたプロジェクト。向江さんが起点となり、先進的な町の協力によって豊かに展開しつつあるこの事業は、今や大きな注目の的。次世代への希望に満ちたこのプロジェクトが成果をあげ、各地に広がっていきますように。

いつか地球畑で種子島ツアーが出来たらいいですね。乞うご期待です。

地球畑代表 大和田明江

かごしま有機生産組合種子島事業部

種子島事業部からの報告

種子島事業部
有馬亮 (写真右)



昨年十二月二十二日にかごしま有機生産組合と南種子町は、「有機農業の普及を図るとともに、荒廃農地の復旧や新規就農者の確保を通じて地域の活性化を図ること」及び「有機農業で持続可能なまちづくりを目指すこと」を目的とした包括連携協定を結びました。協定をきっかけに、南種子町との連携を強化するため、四月に種子島事業部を新設し、南種子町内に事業所を開設しました。また南種子町での有機農業の普及や生産の担い手となるべく、町が募集した二名の地域おこし協力隊を迎え入れ、三人体制でスタートしました。(ウラ面に続く)

種子島事業部奮闘中！！

種子島事業部では、まず町との連携協定に基づき荒廃農地の復旧に取り組みました。現在までに2ha以上を復旧し、耕作放棄される可能性がある圃場などを中心に合計約5haの圃場を管理しています。条件が整った圃場から順番に栽培をスタートさせ、現在サツマイモ、ジャガイモ、かぼちゃ、玉ねぎを栽培しています。

栽培については種子島で有機農業に取り組む向江司さんをはじめ、先輩農家の方々に聞きながら島の気候にあう作物、作型を選び挑戦しています。ただ草の勢いには驚きました。種子島事業部でも草に負けない栽培技術を身に付け、除草剤に頼らない農業を広めていければと思います。



出前授業もやってます！

その1

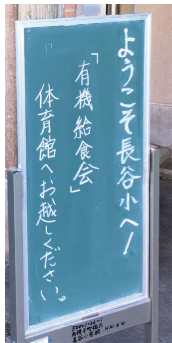
向江さんと南種子町有機農業推進協議会事務局の二人とで、南種子町にある西野小学校の3・4年生向けに有機農業授業をしてきました。2コマの授業で、1コマ目は児童たちが自分で調べた南種子町の特産品などをプレゼンし、2コマ目で私たちが有機農業の説明をするというものでした。有機農業は自然の力を最大限生活かし、環境のため、健康のために必要な農業だと伝えました。JASマークの説明には結構興味を持ってもらえました。



その2

種子島高校の生物生産科の1年生向けにも授業をしました。生物生産科は農業科のような学科で園芸や畜産、それらの加工について専攻し勉強するところです。あいにくの雨でしたが、高校生たちに有機農業とは農業や化学肥料を使用せずに環境にやさしく、また農家の健康にもいい農業だということを説明しました。農業のコースなので、栽培方法についても除草剤を使用しないで草をおさえる方法や、有機質の肥料のみを使った肥培管理などについても話しました。

種子島はいろいろな作物が栽培できるのですが、輸送がネックとなり島外向けの品目がとても少ぼられ、農業のやりにくさがあります。地元で加工までできれば輸送問題が軽減されるので、いろいろな特産品の開発が期待されます。校長先生・教頭先生も有機に理解を示していただき、学校菜園を有機でと言っていました。このような授業を各学校でやりたいということでしたので、これからも他の小学校や中学校でも同様に行う予定です。



長谷小学校では12月7日に「有機学校給食の日」の第1回が実施されました。

「いただきます」の前には協力隊が作成した動画が流れるのですが、その中で家庭から出た生ゴミが堆肥になり作物を育て、その作物が給食になるという循環が伝わります。

ゴミを回収する会社の方の「ゴミから使えるものを使っていくとゴミはなくなる」という言葉は映像とともに見た人の心にダイレクトに届くと感じました。給食の有機化が、南種子町という自治体から鹿児島全体へ、そして日本食文化とともに、世界に発信できるようになる日が今から楽しみでならないと思われる種子島の取り組みです。



有機農業体験教室！

宇宙少年団の小中学生30人プラス保護者の有機農業体験教室では、第1回目は種まきや植え付け、第2回は、その管理と収穫でした。

宇宙少年団は、自然体験やキャンプなどの活動を行っています。その活動の一環で有機農業を体験してもらっています。

畑ではそのままほうれん草を食べだす子もいれば、大根の葉っぱを無条件にちぎり捨てて白い部分だけを持って帰ろうとする子、「葉っぱはうまいんだよ！」と注意する子、いろいろ楽しんでました。

この畑は実は7月頭までスキヤ木でおおわれた荒地でした。体験圃場にしたいという話が進み、急いで開拓をして堆肥をまいて、9月末には一番手前のジャガイモ植え付けを開始しました。土がよかったんだと思いますが、約3か月で畑に戻るんだと感動しました。



こんな感動と一緒に味わいたい方、種子島事業部へ